

第4回 青森市総合計画審議会 第2分科会 議事要旨

- 【日 時】 令和6年4月26日（金）14：50～16：10
- 【場 所】 アップルパレス3階 雅の間
- 【出席者】 児玉 寛子 分科会会長、柿崎 泰明 委員、北畠 滋郎 委員、  
佐藤 洋子 委員、成田 幾末 委員、張山 英和 委員 計6名
- 【欠席者】 佐々木 重光 委員、對馬 明帆 委員 計2名
- 【関係部局】 小野総務部長、横内税務部長、佐藤市民部長、白戸福祉部次長、  
千葉保健部長、高野経済部地域スポーツ課長、土岐都市整備部理事、  
奈良市民病院事務局長、大久保教育委員会事務局教育部長、  
増村青森地域広域事務組合消防次長 計10名
- 【事務局】 太田企画部次長、齊藤企画調整課長、中村企画調整課主査、相馬企画調整  
課主査 計4名

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 分科会の各資料について
- ・ 分科会で審議いただきたい内容について
- ・ 各政策における「基本方向」、「現状と課題」、「主な取組」一覧表

【会議概要】

○事務局から、今後の主なスケジュールを報告した後、資料の見方について説明し、各委員が意見を出し合った。

○審議、質疑応答の概要

**政策1 未来を担う人財の育成**

（委員）

- ・ 施策②「子どもの居場所や主体的に活動できる環境の充実」というところで児童虐待のことが1番下を書いてあるんですが、高齢者と障がいに関しては政策4に載っていて、児童に関してはここに別枠で載せたという理解でよかったですか。

（事務局）

- ・ 政策1「未来を担う人材の育成」は主に子どもが中心となる部分となっていて、高齢者、障がい者の分野は政策4としておりましたので、具体的には、施策①「地域包括ケアシステムの更なる充実」の、サブタイトル《権利擁護の推進》の2段落目で、高齢者、障がい者の方の虐待の防止をそれぞれで記載するようなかたちに整理したところ。

(委員)

- ・「障がいのある子どもやひとり親家庭など」とあるが、この障がいという部分は、身体的障がいや、知的、精神的障がいのほか、現在、小中学校で、不登校やメンタル面に悩みを抱える児童が増加しているという傾向があるという報告があるので、この障がいという部分をもう少し細かく分けて、多様化していることがわかるように見えると良いのかなという気がしました。

(委員)

- ・特別な支援が必要な子どもが本当に増えておりますが、多様なニーズに応じたきめ細やかな子育て支援ということで、数年前から比べると、相当、療育のほうにもスムーズに進めていけるというような感じにもなってきておりますし、さらに、障がいのある子どもとか、特別な支援が必要な子の早期発見だったり、その世帯にどういった支援をやっているかということが大事になってくると思っております。そういう部分もくみ取れると思っておりますので、全体的にはこういった内容でよろしいかなと思っております。

(委員)

- ・1点確認ですけれども、こども家庭センターの「こども」はひらがなの「こども」でよかったですか。漢字ではなくて。

(関係部局)

- ・国の制度でそうなっています。

## 政策2 誰もが文化・スポーツに親しめる機会の充実

(委員)

- ・先日の桜マラソンに全国から4,000名を超える参加があり、福士加代子さんや青山学院大学の生徒5名の参加もありました。彼らはやっぱり一般のランナーとは全然違うんですね。専門家というか本職の人はこんなに違うんだなというのを見せつけられた部分があったのですけれども、そういう人たちとも一緒に走れるといういい経験にもなっていくのではないかなという気がしました。
- ・そのほか、新しい県営プールが完成したり、6月には（青森市総合）体育館がスタートするというので、国民スポーツ大会に向けて青森でスポーツが盛んになるだろうという時期に、ちょうど施設もできて、スポーツ人口がますます多くなるだろうと思います。また、地域活性化ということで、青森ワッツとかラインメールのファンを多くしようと、私たちが大いに紹介しています。
- ・ただ、小学校と中学校の部活動地域移行について、私は野球に関わっているのですが、小学生の部活動をしている子たちの数が少なくなっているという現状が気になっていま

す。前は、例えば小学校の野球の大会というとなかなか50チームぐらいの参加があったが、今は15チームぐらいの参加です。また、中学校では、例えば筒井中学校では、1つの中学校でも出れるんじゃないかと思うぐらいの大きい学校であったのが、何校かと合併したチームで出場しているということで、中学校も部活動をしている子が少なくなっている。子どもの人数が減ってきているのでしょうけれども、部活動をやる子ができるだけ多くなるように取り組むという趣旨の表現を追加できないかと思います。気軽に入れなければなかなか活動もできないだろうと思うので、小・中学校に関してはできるだけ部活動に参加しやすい仕組みを考えてほしいという気持ちであります。

(委員)

- ・父兄の中には、地域に移行してしまうとなかなか子どもが積極的に行けない、学校で放課後に続けてやるのであれば部活もできるけど、ということがあるようなので、地域と連携した運動部活動改革の推進に関しては、学校独自で部活ができるのであれば、それも利用できるような柔軟的な対応で進めていただければ、部活に参加する子どもの数の確保というのもできますし、中学校における生徒指導の効果も期待できると思います。

(委員)

- ・ちょうど私の息子が中学校1年生になりまして、幸畑の例で言いますと、筒井中学校学区と横内中学校学区に分かれています。普通は住所で学区が決まりますが、その中学校にある部活動に行きたいがために、その学区を変更するということができるという規定があるそうです。住んでいる地域に関係なく、ある中学校の部活が強いからそこに入りたいということで、部活のために学校を選んでしまっているという経緯もあると聞きまして、地域移行していく中で、その動きというのはどのようになっていくのかなというの注視したいと思っている点でした。
- ・あと、文化のほうの話になりますけども、私、地域ねぶたをやっている4団体と連携しまして、地域ねぶたの連携協議会というのを立ち上げました。地域ねぶたがコロナの時に衰退し、コロナ前までは市内に70数団体ほどあったものが、30数団体ほどになってしまった。実際に地域ねぶたをやっていた方たちが高齢になり、世代交代がうまくできなかったという経緯もあつたりとか、地域によっては、例えば小中学校が連携してやっていたものが、校長先生や教頭先生が変わってしまって、新しい先生方の意向で地域ねぶたに関わらないということになってしまつたりという経緯の場所もあると。
- ・施策②「文化芸術・歴史の継承」のところで「専門家を地域の学校へ派遣するなど」とあり、学校に限定されてしまっているが、そもそも学校自体があまり地域ねぶたに関して協力できないという学校が出てきている。働き方改革で学校の中の授業の時間にそれを盛り込むというのは難しいという話も出てくる可能性があるのかなというところから、例えば地域で活動している市民団体や地域団体にも派遣するとか、そういう文言もあつ

たほうがいいのかなどという感じはしました。

(委員)

- ・子どもが育っていく上で、芸術とか心の育ちというのはとても必要なものだと思っております。施策①「豊かな人生を作る文化芸術環境の充実」をどうにかして、もうちょっと2・3行くらい増やしてもらおうと見た目が良いのかなと感じました。それと、「ねぶたの技法をアートとして」ということで、これはこれでいいんですけど、もっと「ねぶた祭り」を推してもよいと思います。「ねぶた祭りを通じて」とか「囃子や太鼓の音色」とか、いろんな言い方があると思いますが、青森の「ねぶた」は全国的に有名ですから、もっと「ねぶた」を前面に出してよいと思います。

### 政策3 生涯を通じた健康づくり・持続可能な医療提供体制の推進

(委員)

- ・一昨日くらい前、健康寿命延伸会議があつて、青森市は頑張っているんですけど、青森県では死亡率はもちろん、各年代の死亡率もそうだし、亡くなる疾患もそうだし、本当に圧倒的な最下位です。市民のヘルスリテラシーの向上というのが1番大事なことになるのかなというのを痛切に感じました。なんとか早めに疾患を見つけて、対応していくというのが大事になってくると思います。
- ・ある程度年齢がたった時に、医者が治療しなさいとか、がん検診行きなさいとか言っても言うことを聞かないんですけど、その年代が言うことを聞くのは、子どもが言うとか聞くみたいなんです。だから、やっぱり1番大事なのは、健康教育を学校でやらないといけないと思います。幼稚園くらいとかの学童期になる前から始めて、中学生ぐらいまでにこうなればこうなるから、病気にならないように家族に言ってくださいねと話を持っていくほうが分かりやすいかもしれないです。

(委員)

- ・健康寿命延伸会議のことがでていましたけれども、延伸会議の中でも結構良い提案が出されてきました。例えば、QOL健診を若い時期から導入したらどうかという意見が出ていましたので、中学校におけるQOLの教室の実施などを盛り込むということはできないものですかね。そういう視点も確かにあるんじゃないかなと思うので、検討していただきたいです。

(委員)

- ・《生活習慣病の予防》の3つ目のところで、「食生活の改善の推進に携わる人材の育成」ということがあつて、食生活の改善推進員という方がいらっしゃると思います。実際に現場で直接活動されるのが改善推進員の方たちなのかなとは理解していて、職名を具体

的に出してスポットライトを当てて活躍してもらいたいのも良いのではないかなと感じています。

#### 政策4 高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくり

(委員)

- ・私は元々外科医ですけど、今メインでやっているのは在宅医療と在宅の看取りです。いつも緩和ケアというか看取りを前提とする講習会とかで話をするんですけど、いつもやり玉に上がるのが地域包括ケアシステムの図で、最後、亡くなる時にどこで死にますかというのが抜けているんですよ。地域包括ケアシステムをお作りになった田中先生が講演でおっしゃっていたんですけど、1番大事なのは、自分がどこで死ぬかというのは早く決めることだと。だけど、それをこの「地域包括ケアシステムの更なる充実」という中で「死に場所を決めなさい」とは書けない。ただ、行政の人に知っておいてもらいたいのは、最後はどこで死ぬかというのをいつも頭の片隅に入れてもらって対応してもらったほうがいいと思います。文章としてはこのままで良いと思うので、そのことだけ言わせてもらいました。

(委員)

- ・ちょうど1番左の欄の地域における支援体制の充実というところで、在宅療養などが書かれています。ACP（アドバンスド・ケア・プランニング）の普及啓発というの、ここにちゃんと文言として載っているの、これを広げていくことですかね。看取りとか、自分の最終ステージをどう迎えるかという話に繋がる場所なので。私から1点。施策②「多様なニーズや特性に応じた障がいのあるかたへの支援」の下から2つ目にある「適正」というのはこの漢字でよかったですか。「適性」ではないですか。どうでしょうか。

(事務局)

- ・後ほど確認させていただきます。

(委員)

- ・それと、今回、施策③「地域共生社会の構築」のところで、市の社会福祉協議会や民生委員であったり、更に保護司であったりというのがここに追加になっているということで、こちら辺をさらに強化していくということだと受け止めています。

(委員)

- ・先ほどまで、民生委員・児童委員協議会の総会に行ってきたんですけど、参加した人の共通の悩みが、民生委員・児童委員のなり手がいないということ。本当にいないんです。

- ・ボランティアのほうは、教育委員会の教育長さんがもの凄い働きかけをして、ボランティア推進協力校については、非常に手を挙げる学校が多くなってきている。ですから、私たち社協としても、今ボランティアの波が押し寄せてきているんじゃないかなというすごい期待を持っているんです。
- ・逆に、民生委員・児童委員の育成、確保についても、情報発信では生ぬるいのではないかという気がして、もう歯がゆい気持ちでいっぱいです。もう少し強い働きかけや啓蒙みたいなものをしていただければと思います。情報発信ではちょっと生ぬるいんじゃないかという気がします。

#### 政策5 誰もが互いに尊重し支え合う社会の推進

(委員)

- ・私から1点よろしいでしょうか。施策①「女性活躍の推進・男女共同参画社会の形成」の下から2つ目で、「女性が尊厳と誇りを持って生きられるよう」と始まる一文があります。以前、総括分科会をやった時にも、この女性活躍というのは非常に重要な部分であるものの、その文言の使い方はちょっとセンシティブなところもあるという意見が出ました。
- ・今回、改めてこの取組を見た時に、この「尊厳と誇りを持って生きられるよう」という文言はなくてもいいのかなと思いました。「配偶者等からの暴力など生活上の困難を抱える女性に対し」というところだけでいいのではないかということです。尊厳も誇りも持って生きているでしょうし、それを表現できるかできないかというのは社会の問題であり捉え方なので。

(委員)

- ・ここは女性の活躍の推進のところなので、女性を多分強調しているんでしょうね。尊厳と誇りを持って生きている女性も多くいますので、解釈なんですよ。難しいですね。

(委員)

- ・配慮が必要なのは当然ありますけれども、ここは複数の委員からも御意見をいただきましたので、検討の参考にしていただきたいと思います。

#### 政策6 安全・安心な市民生活・地域社会の確保

(委員)

- ・施策①「防犯・交通安全対策の充実」ですけども、運転マナーのほうはどうかなと。例えば横断歩道を渡る方がいた時に、車は止まらなければいけないというのは最近話題になっていました。青森市内のある場所では実際にそういう取締りも行われているという話もありました。運転手側の運転マナーというものは確かに警察のほうからも守るよう

に啓発活動はありますけども、そこはやっぱり市民として、私たちがそうですけども、ハンドルを握る人間として、そこはやっぱり周知したほうがいいのかなという気がしました。

(事務局)

- ・運転マナーの御意見ですが、施策①の2段落目で「関係機関、団体と連携し」と始まる場所ですが、最後に「安全運転意識の向上を図ります」という言葉があり、そこでそのような運転者側のマナー意識の向上というのを意識した表現にしている場所です。

(委員)

- ・施策③の最後に熱中症対策のことがありますが、クーリングシェルターの設置というのは、これまでにも行っている取組ですか。

(事務局)

- ・先日、ゼロカーボンシティ宣言というのを市として宣言した場所であり、地球温暖化の防止や、また熱中症対策といったことも、市として新しく取り組んでいくという宣言を、先日した場所でございまして、今後、市としても力を入れて取り組んでいきたいということから、こういった取組を今回追加させていただいた場所です。

(委員)

- ・施策③「地域で支え合う環境づくりの推進」ですが、町内会の様々な組織も担い手不足に陥っていて、町内会自体がすでに壊滅的だとか、自主防災組織を作るというのはもう無理だというような話が実際聞こえてきます。
- ・実際の地域コミュニティやまちづくりの担い手については、次の活動に参加したいと思えるような人材を作っていないことには、本当にこの活動というのはすごく難しいんじゃないかという気がします。なので、人材確保に向けての活動というか啓蒙ですけども、そのコミュニティがなぜ必要なのかということを意識していないと、非常にこれは難しいことかな。ここに書かれてあることが実際に行われる場ではできないことがないとなってしまうと厳しいなという気はしました。

最後に政策1から6までを振り返って

(委員)

- ・食育に関する文言等がどこかにありますか。人をまもりそだてる中で、子どもたちへの食育は本当に大事なものだと思っていて、青森市はホタテをはじめとして素晴らしい食材がたくさんある中、食育に関する何かをどこかに入れたいなと思いました。例えばですけれども「地元で作っている方たちとの触れ合いを通じて青森市の食の豊かさを

学ぶ」とか、そういったことがどこかに入っていればいいのかなと思いました。

(委員)

- ・政策 3 の生活習慣病の予防の 3 つ目が「健康的な食習慣づくり」ということで、食生活や食習慣に言及しているところがありますね。

(委員)

- ・生活習慣病の中の食ということであると、青森には結構すごい食材がありますよね。だから、これは食文化ですよね。昔ながらの青森県の食べ物、そういうものを全国的に発信できる場を、どっかに入れてもいいのかもしれないと思います。本当に、ホタテとしてもそうだし、ナマコにしても、もちろんリンゴもそうだし。これは発信してもいいのかなって。

○今日の意見の取扱等の事務連絡を行い解散。